

## 新山 陽子 教授 略歴・主要研究業績

## 略 歴

## 学歴

- 1974年3月 京都大学農学部農林経済学科卒業
- 1977年3月 京都大学大学院農学研究科修士課程修了
- 1980年3月 京都大学大学院農学研究科博士後期課程研究指導修得

## 学位

- 1986年1月 京都大学農学博士

## 職歴

- 1984年7月 京都大学農学部助手採用
- 1989年12月 京都大学農学部講師昇任
- 1994年12月 京都大学大学院農学研究科助教授昇任
- 2002年1月 京都大学大学院農学研究科教授昇任
- 2017年3月 京都大学名誉教授
- 2017年4月 立命館大学経済学部教授
- 2018年4月 立命館大学食マネジメント学部教授

## 賞罰

- 1998年9月 日本農業経営学会学術賞受賞
- 2001年10月 地域農林経済学会賞受賞
- 2003年6月 日本フードシステム学会学術賞受賞
- 2008年10月 京都市自治110周年記念功労者表彰
- 2013年6月 京都府功労者表彰
- 2018年4月 日本農学会賞、読売農業賞受賞
- 2019年11月 日本リスク研究学会賞受賞
- 2021年9月 綾部市功労者表彰

## 学会・社会活動

- 2000年7月～2020年6月 NPO 法人里山ねっと・あやべ代表理事
- 2005年10月～2008年9月 日本学術会議 会員
- 2008年9月～2010年9月 日本農業経営学会 会長
- 2008年10月～2019年9月 日本学術会議 連携会員
- 2012年3月～2014年3月 日本農業経済学会 会長
- 2014年6月～2016年6月 日本リスク研究学会 会長
- 2018年7月～2021年6月 内閣府規制改革推進会議委員
- 2020年8月～ 一般社団法人フードシステム研究所・京都 代表理事
- 2020年12月～ membre correspondante associée de l'Académie d'Agriculture de France

## 主要著作一覧

### 著書

- 『肉用牛産地形成と組織化』日本の農業第154集、農政調査委員会、1985年2月
- 『畜産の企業形態と法人畜産経営』日本の農業第196集、農政調査委員会、1996年2月
- 『畜産の企業形態と経営管理』日本経済評論社、1997年8月
- 『変貌するEU牛肉産業』（共著、四方康行・増田佳昭・人見五郎）日本経済評論社、1999年2月
- 『牛肉のフードシステム－欧米と日本の比較分析－』日本経済評論社、2001年2月
- 『食品安全システムの実践理論』（編著）昭和堂、2004年3月
- 『解説 食品トレーサビリティ』（編著）昭和堂、2005年7月
- 『食の安全を求めて－食の安全と科学』（共著、金澤一郎・祖田修・上野民夫・佐藤文彦・森口文雄・唐木英明）学術会議叢書16、(財)日本学術協力財団、2010年1月
- 『ガイドライン改訂第二版対応解説 食品トレーサビリティ』（編著）昭和堂、2010年7月
- 『有機物循環論』（共編著、植田和弘・高月紘・楠部孝誠）昭和堂、2012年
- 『フードシステムと日本農業』（編著）放送大学教育振興会、2018年3月
- Essential Elements for Interactive Risk Communication in the Food Related Emergency; A Model and Experiments on the Health Effects of Radioactive Substances. Edited by Poulain, J. P. and L. Augustin, *Risk and Food Safety in China and Japan*, Routledge, 2018, pp101-128.
- 『フードシステムの構造と調整』（フードシステムの未来へ1）（編著）昭和堂、2020年4月
- 『農業経営の存続、食品の安全』（フードシステムの未来へ2）（編著）昭和堂、2020年4月
- 『消費者の判断と選択行動』（フードシステムの未来へ3）（編著）昭和堂、2020年4月

### 翻訳書

- 『食品安全と栄養の経済学』（共監訳、桜井卓次・加賀爪優・松田友義）農林統計協会、2002年7月

### 学術論文

- 「農業経営の『複合化』に関する最近の研究動向」『農業経営研究』第51巻第1号、40-45頁、1979年
- 「肥育素牛預託制度の成立要因と存在形態」『農林業問題研究』第59号、12-19頁、1980年
- 「肉用牛生産における共同利用施設の展開－肉用牛放牧経営に関する企業形態論的把握の一試論」『農業計算学研究』第18号、1985年12月、168-181頁
- 「肉用牛経営の課題と展開方向」『農林業問題研究』第24巻第4号、35-47頁、1988年
- 「牛肉の流通構造と価格形成メカニズムに関する日米比較分析」『商品先物取引研究』1991年12月、73-127頁
- 「畜産の産地体制と地域畜産組織」『農業計算学研究』第24号、1991年12月、99-108頁
- 「フードシステム研究の対象と方法－構造論的接近－」『フードシステム研究』創刊号、51-60頁、1994年
- 「法人畜産経営の発展過程における資金管理の特質と考え方」『農業経営研究』第33巻第3号、1-13頁、1995年
- 「畜産経営の発展と経営戦略」『農業経営研究』第34巻第2号、30-40頁、1996年
- 「欧米の食品の品質管理にみる新しい食品供給システムのあり方」『農業と経済』第62巻第13号、1996年12月、14-25頁
- 「畜産経営における経営継承の条件と課題」『農業経営研究』第36巻第4号、20-30頁、1999年
- 「食料システムの転換と品質政策の確立－コンヴァンション理論のアプローチを借りて－」『農業経営研究』第72巻第2号、2000年9月、47-59頁
- 「食品安全確保と牛肉をめぐるフードシステム－EUのBSE対応をふまえて－」『農業と経済』第68巻第2号、2002年2月、5-21頁

- 「食品由来リスクにどう向き合うか」『農業と経済』第 68 巻第 14 号、2002 年 12 月臨時増刊号食品安全性確保の考え方：リスクアナリシスとは何か、5-19 頁
- 「農業関連産業をめぐる物質循環と総合マネジメントシステム」『農業経営研究』第 40 巻第 4 号、2003 年 3 月、21-33 頁
- 「食品由来の健康に対するリスク管理」『システム / 情報 / 制御』システム制御情報学会、Vol.47.no.8、2003 年、399-405 頁
- 「食品安全政策の国際的な動向—科学的な基礎と農場から食卓まで—」『科学』2004 年 12 月号、89-97 頁
- 「食品購買における消費者の情報処理プロセスの特質—認知的概念モデルと発話思考プロトコル分析—」(共著、西川朗・三輪さち子)『フードシステム研究』第 14 巻第 1 号、15-33 頁、2007 年
- 「牛乳のおいしさと商品選択行動—店頭観察調査・IDB・質問紙調査・官能評価による包括的研究—」(共著、細野ひろみ・工藤春代)『農業経営研究』第 45 巻第 2 号、2007 年
- 「食品購買時の提示情報量と消費者の選択行動：トレーサビリティ・システムにおける情報提供をめぐる」(共著、佐藤真行)『フードシステム研究』第 14 巻第 3 号、13-24 頁、2008 年
- 「食品事業者とステークホルダーとの関係はどうつくられるか—社会的責任と経済条件—」『農業と経済』第 75 巻第 11 号、45-54 頁、2009 年 9 月
- 「フードシステム関係者の共存と市場におけるパワーバランス」『農業と経済』第 77 巻第 1 号、75-88 頁、2011 年 1 月・2 月合併号
- 「食品由来リスクの認知要因の再検討—ラダリング法による国際研究—」(共著、細野ひろみ・河村律子・清原昭子・工藤春代・鬼頭弥生・田中敬子)『農業経営研究』第 82 巻第 4 号、230-242 頁、2011 年
- 「食品由来のハザード別にみたリスク知覚構造モデル—SEM による諸要因の複雑な連結状態の解析—」(共著、鬼頭弥生・細野ひろみ・河村律子・工藤春代・清原昭子)『日本リスク研究学会誌』第 21 巻第 4 号、295-306 頁、2012 年
- 「食品安全のためのリスクの概念とリスク低減の枠組み—リスクアナリシスと行政・科学の役割」『農業経営研究』第 84 巻第 2 号、62-79 頁、2012 年
- 「放射性物質の健康影響に対する市民の心理と双方向で密なリスクコミュニケーション—知識の獲得に必要な精緻な情報吟味プロセス—」『農林業問題研究』第 48 巻第 3 号、1-10 頁、2012 年
- An experimental interactive risk communication on the health effects of radioactive substances in food, jointed with Yayoi KITO, and Haruyo KUDO, *Emerging Issues Learned from the 3.11 Disaster as Multiple Events of Earthquake, Tsunami and Fukushima Nuclear Accident*, The Committee of the Great East Japan Disaster edited by Saburo Ikeda and Yasunobu Maeda, Society for Risk Analysis, Japan, March 11, 2013, pp54-58
- 「フランス、オランダの農業・食品分野の専門職業組織—設立根拠法と組織の役割、職員の専門性」(共著、高島毛敏雄・関根佳恵・河村律子・清原昭子)『フードシステム研究』第 20 巻第 4 号、386-403 頁、2014 年
- 「「家族経営」「企業経営」の概念と農業経営の持続条件」『農業と経済』第 80 巻第 8 号、5-16 頁、2014 年 9 月号
- 「市民の水平的議論を基礎にした双方向リスクコミュニケーションモデルとフォーカスグループによる検証—食品を介した放射性物質の健康影響に関する精緻な情報吟味—」(共著、鬼頭弥生・工藤春代・松尾敬子)『フードシステム研究』第 21 巻第 4 号、267-286 頁、2015 年
- 「健康食品のリスク知覚構造」(共著、山口道利・工藤春代・鬼頭弥生)『日本リスク研究学会誌』第 25 巻第 4 号、179-187 頁、2016 年
- 「食事内容に関する実態調査—組み合わせパターンに着目して—」(共著、工藤春代・鬼頭弥生)『農業経営研究』第 88 巻第 4 号、410-415 頁、2017 年
- Diversification and Survival Conditions of Family-run Farming in Japanese Context, *The Natural Resource Economics Review*, Special Issue, 13-34, 2019
- How to View Changes in Family-run Farming, *The Natural Resource Economics Review*, Special Issue, 51-58,

2019

- 「地方自治体における食品安全行政専門職の現状と課題—地方自治体へのアンケート調査—」(共著、清原昭子・工藤春代・高鳥毛敏雄・鬼頭弥生)『フードシステム研究』第26巻第3号、112-127頁、2019年
- Articulating challenges in defining Japanese Washoku and French gastronomy: Comparative analysis of the inscribed definitions and their safeguarding measures, jointed with Ueda, H., Y. *Journal of Food System Research*, 26 (3), 2019, pp. 144-164
- Associated Images of the Health Effects of Radioactive Substances in Food and their Origins: Studies in Japan and France, jointed with Jean-Pierre POULAIN, Haruka UEDA, Mathilde LABEAUT, Laurence TIBERE, Yayoi KITO, Haruyo KUDO, *Japanese Journal of Risk Analysis*, 29 (4), 2020, pp. 273-285
- Association Between Dietary Patterns and Attitudes Toward Meals by Gender, Age, and Household Type in Japan: Using Multiple Correspondence Analysis, jointed with Yayoi KITO, Haruyo KUDO, *Journal of Food System Research*, 27 (1), 2020, pp. 2-16
- 「フランスにおける地域圏食料プロジェクトと地域圏フードシステム—トウルーズ・メトロポルの事例を踏まえて—」(共著、大住あづさ・上田遥)『フードシステム研究』第28巻第1号、29-45頁、2021年
- 「被災時の炊き出しを中心とした食料供給と栄養素等摂取量に関する検討—1953年の「7.18水害」における御坊平野を中心に—」(共著、保井智香子・荒木一視・吉積巳貴)『フードシステム研究』第28巻第1号、2-15頁、2021年
- 「日本の地域産品にテロワールを見出すことはできるか—高島地域の調査から見た課題と展望」(共著、末永恭規・田中翼・和田教汰)『フードシステム研究』第27巻4号、256-261頁、2021年
- 「フードシステムにおける卸売市場の役割と機能—取引ルールの意味、取引費用の節減、そして未来に向けて—」『立命館食科学研究』Vol.3、213-230頁、2021年
- 「新型コロナウイルス感染拡大下の外出自粛行動が及ぼすフードシステムへの影響とその対応—京都を事例として—」(共著、大住あづさ・上田遥)『フードシステム研究』J-STAGE 早期公開版、1-18頁、2021年12月10日公開
- 「地域圏フードシステムの構築—フランスの地域圏食料プロジェクトから日本のあり方を考える」季刊『農業と経済』2021Autumn、2021年11月、29-45頁